

令和元年度老人保健健康増進等事業

科学的介護データの分析に資する介護行為の実態把握に係る調査研究事業

株式会社三菱総合研究所

◆事業の目的

今後の科学的介護の分析に資する資料を作成するため、介護老人福祉施設、介護老人保健施設、介護医療院、認知症対応型共同生活介護事業所及び特定施設入居者生活介護事業所において、高齢者に提供される介護行為の把握・分類を行い、高齢者に対して、どのような目的で、どのような介護行為が提供されているかを調査し、介護保険制度の改訂や介護技術・介護ツールの新たな登場により生じた新たな介護行為の拾い出しを行うことを目的に実施した。

◆介護行為の実態把握に関する調査の結果

本事業で設置した検討委員会の助言を受けて実施したヒアリング調査、アンケート調査、タイムスタディ調査の結果から、新たな介護行為など、介護行為の変化に影響を与えている要因とそれに伴う業務の変化を以下のように整理できた。

○社会的変化による介護ロボットやICT機器の導入による影響を受ける業務	社会的変化により、介護ロボットやICT機器などの導入が進んでいる。それらを導入するための研修を始め、機器の利活用に伴う業務、そこからさらに波及して生じる業務などに影響が及んでいる。
○様々な介護用具の使用が増えたことが影響する業務	様々な介護用具の種類が増えることによって、それぞれを適切に使いこなすことができようになるための知識等の取得、それら用具を使うための業務が新たに発生する。
○制度的変化に伴う影響を受ける業務	制度的変化に伴い、従来と比較して増加もしくは発生している業務がある。
○看取りの増加に伴う影響	施設・事業所において看取りを行うことが増える中で、それらに関連する業務が増えている。
○利用者の平均的な状態像の変化に伴う影響	施設・事業所の利用者の状態が、重度化するなどの影響により、業務が変化している。
○利用者の意向を重視する考え方の高まりに伴う影響	施設・事業所における運営の考え方の変化により、その考え方に関連する業務が増加あるいは生じる。
○アウトソーシングの活用などによる施設・事業所で行う業務への影響	例えば配食サービスの活用などにより、これまで実施していた業務が変化するといったことが生じているケースがあることがわかった。

◆ICHIとケアコードの比較結果

本事業で設置した検討委員会の助言を受け、ICHIとケアコードの比較を行った結果、主に2つ目の分類の「活動への介入及び参加領域」でケアコードと類似した項目が多くみられた。また、小分類に関してはICHIの中分類によって構成に違いがあるものの、観察と見守り、実践的な支援と介助、情緒的な支援と言葉による働きかけ等、部分的な一致が見られた。

特にケアコードと関連が多かった2つ目の分類の「活動への介入及び参加領域」で現在のケアコードに含まれていない中分類のコードとしては、利用者の学習や一般的なタスクと要求への介入、コミュニケーションの受け取り・生成、可動性への介入、セルフケア、家庭生活への介入、対人関係及び人間関係への介入、教育・仕事・雇用・経済生活等の主要な生活領域への介入、地域社会・社会・市民生活への介入等が確認できた。